

【小規模企業景気動向調査】(令和5年8月期調査 全国商工会連合会 9月22日発表分 参照)

<産業全体>

◇…前年から改善は続くも、コスト高と酷暑の影響から足踏み状態の小規模企業景況…◇

8月期の産業全体の業況は、全DIが悪化し、売上額・採算・資金繰りDIは小幅に悪化、業況DIは大幅に悪化した。経済活動はコロナ禍前に戻りつつあるものの、酷暑や物価高が妨げとなり需要が伸び切らず、足踏み状態となっている。コスト高による利益の圧迫が続き事業者からの融資相談の深刻さが増している、条件変更の相談も多くなっている、との厳しいコメントも見られた。

<製造業>

◇…原材料共有の不安定さから、稼働率が悪化している製造業…◇

製造業は、売上額・業況DIが大幅に悪化し、資金繰りDIが小幅に悪化した。食料品関連は、売上額DIが小幅に悪化、業況DIは大幅に悪化した。酷暑による作物不良で原材料の供給に影響が出ている。繊維関連は、採算DIが大幅に改善したが、売上額DIは小幅に悪化した。仕入れ単価の上昇が緩やかにになり始めたが、需要に頭打ち感がある、とのコメントがあった。機械・金属関連は、全DIが大幅に悪化し、売上額・業況DIはともに2桁ポイント悪化した。鉄鋼材等の高騰や一部部品不足で完成品の生産が困難、受注が減り取引先に依頼し仕事を確保している状況、とのコメントがあった。

<建設業>

◇…人手不足の厳しさが増し、職人・下請け業者を取り合う建設業…◇

建設業は、全DIが悪化し、採算DIは小幅に悪化、売上額・資金繰り・業況DIが大幅に悪化した。お盆時期の受注減少に加え、酷暑による工期延長が発生している。人手不足が顕著であり、半年先にある1日だけの工事の人材すら確保できない、原材料費と人件費の上昇で利益確保が困難とのコメントも見られた。人手不足による受注機会ロスも続いており、同業他社で職人・下請け業者の取り合いとなっている。

<小売業>

◇…業種の好不況を酷暑が左右する小売業…◇

小売業は、売上額・採算・業況DIがわずかに悪化した。コスト高騰の影響は続いているが、一部業種ではイベント需要等での売上が回復している。衣料品関連は、依然として酷暑から秋物の動きが悪く、売上額・採算が小幅に悪化、業況DIが大幅に悪化した。食料品関連は、お盆期間での利用客の増加から、全DIが改善し、採算・資金繰りDIが小幅に改善した。耐久消費財関連は、原油価格高騰で仕入れ価格が上昇しており、売上額DIが小幅に悪化、採算DIが大幅に悪化した。

<サービス業>

◇…エネルギー価格等のコスト高で、採算悪化が顕著なサービス業…◇

サービス業は、全DIが悪化し、資金繰り・業況DIが小幅に悪化、採算DIが大幅に悪化した。バカンスシーズンではあるものの、酷暑で客足が伸びなかった。旅館関連は、インバウンド需要を中心に、売上額DIはわずかに改善した一方で、採算DIが大幅に悪化。エネルギー価格に加え、食材の値上がり等もコスト増加の一端となっている。クリーニング関連は、全DIが悪化し、採算・資金繰り・業況DIが大幅に悪化。理・美容関連は、全DIが悪化し、特に採算DIが大幅に悪化した。

産業全体				製造業				建設業			
DI	7月	8月	前月比	DI	7月	8月	前月比	DI	7月	8月	前月比
売上額	128	89	▲39	売上額	143	68	▲75	売上額	127	76	▲51
採算	▲295	▲327	▲32	採算	▲362	▲364	▲02	採算	▲346	▲379	▲33
資金繰り	▲248	▲280	▲32	資金繰り	▲274	▲298	▲24	資金繰り	▲316	▲384	▲68
業況	▲141	▲191	▲50	業況	▲157	▲238	▲81	業況	▲163	▲234	▲71

小売業				サービス業			
DI	7月	8月	前月比	DI	7月	8月	前月比
売上額	47	28	▲19	売上額	194	183	▲11
採算	▲346	▲359	▲13	採算	▲127	▲207	▲80
資金繰り	▲303	▲295	08	資金繰り	▲98	▲141	▲43
業況	▲232	▲245	▲13	業況	▲11	▲44	▲33

【兵庫県内企業動向調査】

●兵庫県の経済・雇用情勢（県 地域経済課 8月10日発表分）

本県の経済・雇用情勢は、持ち直している。

景況等...企業の業況判断は、足もと改善し、先行きも横ばい圏内を見込んでいる。

需 要...個人消費は、回復に向けた動きが広がっている。

輸 出...輸出は、増勢が鈍化している。設備投資は、増加計画にある。

生 産...生産は、一進一退の動きとなっている。

雇 用...有効求人倍率は、前月を下回った。雇用者所得は、全体として改善の動きがみられる。

金 融...倒産件数は、前年を上回った。

●県内景気の現状についての日本銀行神戸支店のコメント（7月20日発表分）

管内の景気は、持ち直している。

個人消費は、回復に向けた動きが広がっている。設備投資は、増加している。住宅投資は、持ち直している。公共投資は、弱めの動きとなっている。輸出は、増勢が鈍化している。

こうした中、生産は、横ばい圏内の動きとなっている。雇用・所得環境は、全体として緩やかに改善している。消費者物価（除く生鮮食品）は、前年を上回って推移している。

景況

現状（良い-悪い）構成比（%ポイント）

区分	R4.9	R4.12	R5.3	R5.6	R5.9(予測)
全産業	3	2	5	9	8
大企業	8	10	6	13	15
中堅企業	10	3	11	11	10
中小企業	▲2	▲3	2	5	1
うち製造業	▲1	▲3	▲3	▲1	3
うち非製造業	10	7	17	20	13

出所：県内企業短期経済観測調査（日本銀行神戸支店）

【川西市の経済動向等について（中小企業景況調査）】

※経営指導員による巡回時のヒアリングから見える川西市内の動向（9月）について

景況

市内では、新型コロナウイルスの感染による景気への影響が薄れていく中で、9月の景気動向は全体としては緩やかではあるが持ち直し傾向を見せてきている。ただ対面型サービス業においては、売上高の増加が見られているものの、個人消費は物価高の影響を受け、個人での支出額が弱く、大きな持ち直しを見るまでには至っておらず一服している感がある。先行き感は一服感は小売・サービス業では秋に向けての各種お祭りや催事イベント等も実施されるなどで、更なる人流の増加も予測され、景況へのプラス要因と期待している。製造業、建設業においても生産が微増傾向ではあるが、改善の方向を向いている。一方で、市内全業種において、原油高騰に起因するエネルギー価格の高騰や資材等物価上昇によるコスト増加による影響を長く受けており、利益率の悪化につながっていることからの脱却が難しいと感じている事業所が多い。

製造業

製造業の生産活動では、9月は前月比で微増、10月予測でも微増のところが多い。製造業種全般においても微増傾向は継続しているが、高い伸びへの期待感は薄い感じがある。一方でコストの増加が9月も継続しており、受注高の増加は見られても利益の増加を伴わず、経営環境の悪化からなかなか抜け出せないところが多い。

建設業

建設業全般では、前月に続き9月においても公共工事の受注やリフォーム受注などで売上高は微増傾向となったところが多かったが、資材価格とエネルギー関連価格の高騰の影響によるコスト高や人手不足による外注費増加により、依然として利益が減少しているところが多い。先行き感は一服感は、政府の各種施策により、今後の経済活動の活発化に向けた動きが加速されるよう期待している。

小売業・サービス業

飲食業を中心とした各種対面型サービス業における売上高は増加傾向を維持しているものの、物価高の影響で個人消費の支出が弱く、伸び悩みがあることから市内の小規模小売・サービス業としては持ち直し傾向への加速感が一服している。小売業の中でも百貨店・スーパー、ドラッグストアなどの大型店では食品関連の売上は好調を維持した。

また、10月以降は秋季に行われるお祭りや各種イベントでの人流増加が予測されており、売上高の増加への期待感を持っている。

小売・サービス業全体としての先行き感は一服感は、次月以降も緩やかではあるが回復基調が続くと予想する事業者が多いが、長引く原価の高騰によるコスト増の影響により利益率の低下と経営環境の悪化について不安視している。